



競争原理という経済システムへの考察

クロダイインターナショナルコンサルティング

黒田 毅

競争はより優れた現実を与える。他方においては落伍者がいるのである。競争は勝利における賞賛を有する。これが世界の現実なのである。

これらは戦争と進歩という過去と相似する。競争は対立を有するのである。これらは対立という現実でなく融和という未来は、競争を否定することは選択である。

富の不均衡や占有は、世界の現実である。西洋の社会思想は、自己のプレゼンスを否定できないのである。

これは歴史の見直しを提案するものである。戦争を引きずる競争という現実へ、その疑問を呈するものである。

これらは新たな経済戦争を有するのであり、先端技術の保護という経済安全保障は、世界における永遠のプレゼンスを模索するものである。

これらは、世界の選択に対峙するものである。これら現実に対して、唯一可能なのは、選択なのである。

これらは経済優先主義や、経済が現実を支配することは存在するのである。経済は富の蓄積でなく、生活の供与であることは過去における現実である。これらは今日自由経済システムへ転換し現実を支配している。

これらは、ベーシックインカムや新社会主義という選択を提案できるものである。これらは貧困の解決や、平等性というルールを現実へ提案できるものである。

これらは新しい世界における選択であり、競争というルールから、融和や共生という新しい現実への転換を提案するものである。

これらは西洋史館という勝利と賞賛という価値から、東洋的な共生という概念における提案を提示できると考える。